

## 18 ミヤマムシオイ(多田, 仮称)

*Chamalycaeus* sp.

(ムシオイガイ科)

兵庫県ランク:A

環境省ランク:指定なし

### 種の概要

未記載種。香川県在住の多田昭氏が「ミヤマムシオイ」と仮称する。兵庫県中西部、岡山県西部、広島県東部、愛媛県中・北部に分布する。低地から山地にかけての林床に生息する。殻径3.5~4mmになり、形状の類似からも一見ハリマムシオイ(貝類Aランク)と混同されがちだが、殻口近くのくびれは弱く、これより殻口側の螺管の成長脈は比較的粗く現れ、殻口近くの膨らみがやや強い点で相違する。

### 主要な選定理由

| 人為性   |        |        | 生息環境の特殊性 |       | 学術性   |       |    |
|-------|--------|--------|----------|-------|-------|-------|----|
| 個体数激減 | 分布域に影響 | 営利目的捕獲 | 特殊生息環境   | 地域的孤立 | 分布が極限 | 分布の限界 | 希少 |
| ○     | ○      |        |          | ○     | ○     | ○     | ○  |

### 県内分布

姫路市、福崎町、宍粟市

### 県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。2003年版では、当時、姫路市姫山原生林(姫路城)の個体をハリマムシオイ(貝類Aランク)としていたが、矢野・大原(2011)の見解に従い、姫路市や福崎町、波賀町、山崎町(現:宍粟市)産を本種として扱った。現在、波賀町の3箇所を含めて計5箇所が知られるのみである。このうち、姫路市姫山原生林(姫路城)においては、国宝、世界文化遺産として林地も保全されているものの、林床の乾燥化や荒廃、外来植物の侵入により絶滅に近い状況下にある。また、波賀町の2産地においては再確認できないなど個体群の弱小さがうかがえる。

### 保護上の留意点

既知産地は自然林中にもあるが、林道や国道に面しており、今後の開発の影響を受けやすい。産地の1つである姫路市姫山原生林においては、外来植物の移入や林床の乾燥化が目立ち、陸貝全体が著しく減少している。生息環境が特定しにくい環境であることから、既知産地の保全に努めるほかない。



【執筆者】 増田修